



研究用試薬

ヒストファイン

第一抗体

抗ケラチン/サイトケラチン7モノクローナル抗体(ヒストステイナー用)
(動物種: マウス)

包装: 60テスト(12mL) Code: 713481

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

■本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。

■特異性および抗原分布: ヒト組織中のタイプII(塩基性)に属するヒトケラチン7(分子量54kD)と特異的に反応する。ケラチンは分子量(MW)、等電点(pI)により、タイプI(酸性)、II(塩基性)に分類される。正常では、肺、乳腺の腺上皮、移行上皮や胆管の上皮細胞など多くの腺上皮細胞を含む上皮細胞に反応がみられるが大腸や前立腺の上皮、重層扁平上皮、肝細胞、他のサイトケラチンでは反応がみられない。腫瘍では、肺の腺癌、移行上皮癌、卵巣癌や乳腺腫瘍などの多くの良性、悪性病変において発現がみられるが、胃、小腸、大腸などの消化器系の癌、前立腺癌、扁平上皮癌では反応がみられない。

■クローン名: OV-TL 12/30

■抗体のサブクラス: IgG1, κ

■免疫原: 卵巣癌の細胞株 (OTN 11 ovarian carcinoma cell line)

1. 内容

第一抗体・・・抗ケラチン/サイトケラチン7モノクローナル抗体(動物種: マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に12mLを含む。

2. 使用目的

組織・細胞中のヒトケラチン/サイトケラチンの染色。

正常の腺上皮の分類に役立つ。また、腺癌、移行上皮癌の特異的マーカーとしても有用である。

3. 切片の準備

パラフィン包埋切片の免疫組織化学染色および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

前処理(抗原賦活化)としてヒストファイン プロテアーゼ(ヒストステイナー用)(Code:715231)で処理が必要である。

■参考: 組織の固定状況等によりヒストファイン プロテアーゼ(ヒストステイナー用)(Code:715231)の代わりにヒストファイン抗原賦活化液 pH9 (Code:415201 または Code:415211)を用いたオートクレーブ処理をすることで、より良好な染色結果が得られる場合がある(裏面の■参考参照)。

4. 使用方法

1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。

2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

5. 染色方法の設定

1) プロテアーゼ 反応時間を10分間とする。(「3.切片の準備 ■参考の処理」を行った場合は必要なし)

2) 第一抗体 反応時間を30分間とする。

注) 組織の固定状態によっては、「プロテアーゼの反応時間 10分間」では、処理効果が強過ぎる場合がある。その場合、プロテアーゼの反応時間を短くすること。

6. 貯法

2-8℃保存。

7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織（細胞）化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	抗 CK7E/クロ-ナル抗体
試薬略称(10文字)	CK7-MM
バーコード	CK7-MM
時間(分)	30

8. 主要文献

- (1) Frans R. et al: Am J Pathology 136: 641 - 655, 1990
- (2) Catharina C. Van N. et al: Journal of Pathology 165 : 145 - 152, 1991
- (3) F. J. J. M. Van de Molengraft et al: Histopathology 22: 35 - 38, 1993
- (4) Janny H Baars et al: Am J Clin Pathology 101: 257 - 261, 1994
- (5) Adhemar L. Filho et al: Acta Cytologica 41: 961 - 971, 1997
- (6) 田中 純也 他:日本医科大学雑誌 65 巻: 14 - 27, 1998
- (7) R. Torenbeek et al: Histopathology 32: 20 - 27, 1998
- (8) 泉 美貴: 病理と臨床 20: 673 - 378, 2002

■ 研究用としてのみ使用すること。

■ 参考：ヒストファイン 抗原賦活化液pH9(Code：415201またはCode：415211)を用いたオートクレーブ処理の場合
(おもて面の■参考参照)

1. 50℃で十分に湯伸ばしした切片(3-4μm厚)をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化)：オートクレーブ処理
 - ①抗原賦活化液pH9を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
 - ②バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
 - ③120℃、20分間オートクレーブ処理する。
 - ④圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
 - ⑤バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。
※オートクレーブ処理後は、バットおよび抗原賦活化液pH9等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
 - ⑥スライドを抗原賦活化液pH9から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ピンを使用する)。

・ 抗原賦活化液pH9の作り方

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ Code：415201 抗原賦活化液pH9 (調製済)は、そのまま用いる。・ Code：415211 抗原賦活化液pH9 (10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。 |
|---|